

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2014-03-20

APM news 100

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館(旧北越銀行宮内支店)

長岡市立上組小学校、

秋山孝ポスター美術館長岡連携展覧会 2月22日(土) am 10:00~pm3:00/入館者:74名

「ありがとうアート ~わたしのまち~」



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233



「ありがとうアート~わたしのまち~」は、「わたしのまち」と「感謝の木」の二つから構成された。「わたしのまち」は6年生が心に残る場所や地域の様子を絵に描いたもので、すでに上組小・芸術祭で校内に展示しているが、地域の人々に見てほしいとの思いからAPMと連携し展示に至った。6年生の作品はAPMで所蔵するポスター作品と同様に丁寧に扱い、額に入れて展示した。「感謝の木」は風鈴展で使用したツリーに、地域と学校への感謝の気持ちを書いた短冊を飾った。風鈴展は今まで夏と秋に行っており、6年生にとって懐かしい、思い出のツリーである。

当日は閉館時間の10時を少し過ぎた頃から来館者がやってきた。6年生が家族を連れて案内したり、友人どうして来館したり、離れて暮らしているおばあさんが孫からの電話を受けて訪れたり。中には、来年こども美術館の企画・運営を行う立場の5年生もおり、じっと作品を眺めている姿が印象的であった。6年生は、美術館という公の空間に展示された自分の作品を見て、何を感じたのだろうか。人は作品にメッセージや思いを込めて制作する。6年生の制作した作品にも、様々な思いやエピソードがあるだろう。その場所、その時間を選んだ理由、その色を使った理由。それぞれに思いをはせ、意見を交換しながら見ていくと、そこには深い理解がある。日本の美術教育において、鑑賞は軽視されている。それは、「日本において鑑賞教育は美術を言語で教えるという知識教育に繋がり、情操教育とはみなされていないから」(※1)である。しかし鑑賞には様々な能力を育む力がある。たとえば近年評価されている対話型鑑賞は、作品について意見を交換し合い、話し合いながら作品への理解を深めていく手法である。相手の意見を受け止め理解する力、自分の意見を正確に伝える力。どちらも相手と正しくコミュニケーションするために考え、言葉を選んでいかななくてはならない。また作品を理解するためには、描かれているものをよく見ることも必要となる。

2009年、上組小とAPMで行った「あなたならどう読む?ポスターに込められたメッセージ」はまさにこの考えさせる鑑賞授業であった。ポスターという明快なメッセージの込められたイラストレーションから本質を読み取り、作者の意図を知る。APMの目指す美術館の姿と重なる教育がそこにはあった。これからもAPMは美術教育の発展のために、地域と協力して子どもたちの未来に貢献していきたい。

(APM公式ホームページより抜粋) ※1 参考資料:秋山文「美術と教育」